

自立課題づくり

～課題の設定、作り方、教示の仕方～




こども発達支援センター
こども発達支援センター風
管理者 兼 児童発達支援管理責任者
福高 翼

自立課題とは

- ・ 自分ひとりの力で出来る課題
- ・ 今までに得た力で達成できる課題

* スキルアップが目的ではない



なぜ自立課題をするのか


- ・ 自尊心を育み、自己肯定感を高める
- ・ 色々な事に取り組もうという意欲を育てる
- ・ 余暇の過ごし方の幅がひろがる
- ・ 勉強する習慣が身につく

⇒ 将来の自立した活動に繋がる

ご家庭でも自立課題に取り組んでみましょう


- ・ 就学へ向け、机上に向かう習慣をつけたい
- ・ 余暇がうまく過ごせない
- ・ こどもをほめるキッカケがない

* そんなときは自立課題に取り組んでみましょう！



自立課題をつくる前に

- 1 どんな課題がいいのか
- 2 スケジュールの活用
- 3 集中して課題ができる場所をつくる
- 4 ごほうびの活用
- 5 課題の設定



1. どんな課題がいいのか

「市販の教材ではうまくできなかった」
「教えてもうまくできなかった」

その子にあったものではないのかも…

お子さんの特性と個性を理解し適切に評価をして
一人ひとりにあった課題をつくりましょう

課題選びのためのポイント

- 興味、関心のあるものは何か
⇒ 集中しやすい、意欲をもって取り組める
- 得意なことは何か
⇒ 取り組みやすい、達成感を得やすい
- できること（スキル）は何か
⇒ その日の体調も考慮しつつ、課題の内容や
取り組む時間の設定などを考慮する



2. スケジュールの活用

- 今からする活動の予定を、予め伝えておくことで、活動の切り替え時の混乱を少なくします
- あらかじめ知らせておくことで、見とおしをもって行動できます

* スケジュールを活用し日課の流れを伝える



3. 集中して課題ができる場所を作る

- 場所によってする活動を決める
 - * 求められている行動がわかりやすく、集中できるため、自立した活動に繋がります
- アクティビティシステム（ワークシステム）の活用
 - * 指示がなくとも、課題の意味、手順、量などを自身で理解し、ひとりで自立した学習や作業などの活動ができるようにする

場所によって活動を決める

- ひとつひとつの活動の境界を明瞭にする
 - * 例えば遊ぶ場所とお勉強する場所は別に用意し、場所の違いを明確にすることで、活動の違いがわかりやすくなり、場面の切り替えがしやすくなります
 - ⇒ 壁、衝立、カーテン、棚、カーペット等をうまく活用
- 必要なものに集中できるようにする
 - * できるだけ静かな場所、必要でないものが整理されている、といった、不必要な情報や刺激は最小限に
 - ⇒ テレビは消す、本棚に目隠し、イヤーマフの使用…等々

アクティビティシステムの活用

- アクティビティシステムとは
 - * どんな課題をするのか
 - * どのくらいの量をするのか
 - * いつ終わるのか（どこまで進んでいるのか）
 - * 終わったら次に何をするのか
- これらの情報を見てわかるようにする



アクティビティシステムの形

- 左から右（上から下）
⇒ 置いてある課題がなくなったら終了
- マッチング式
⇒ 色、数字、文字などのマッチングを活用して、順序を示す
- リスト式
⇒ リストに書かれた順序に従って行う

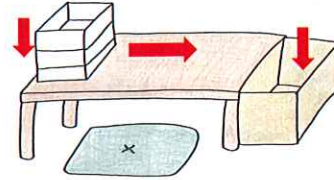
左から右（上から下） ⇒ 終了箱



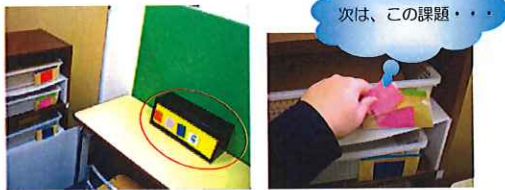
おしまい
(フィニッシュボックス)

左から右（上から下） ⇒ 終了箱

・棚から課題を取ることが難しいお子さんには、課題のカゴを机の上に積み重ね、上から下の順に取り組む方法もあります



マッチング式 ①色のマッチング



マッチング式 ②数字のマッチング



リスト式



できたらチェックする

4. ごほうびの活用（トークン）

- ・課題ができると、トークン（代用貨幣。シールなど）がもらえる。一定量に達するとごほうびがもらえる
⇒ 継続的な取り組みの励みになる
- ・ごほうびは本人と相談して決める。
⇒ 本人が欲しい！楽しみ！と思えるからこそ動機になる
- ・トークンのゴールまでの距離もスモールステップで！
⇒ 最初はトークンシステムの理解のために短く

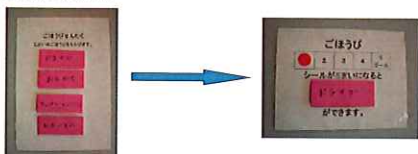


ごほうびの活用例

- チップスターが大好きなお子さん



- ごほうびの選択



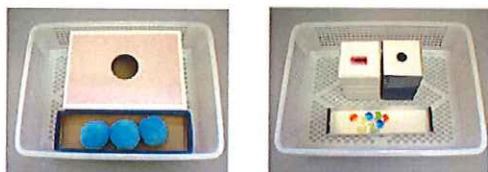
5. 課題の設定

- 視覚的構造化の3つの要素

- * 視覚的指示
⇒ 課題のやり方や手順を視覚的に示すこと
⇒ 見て分かるように
- * 視覚的明瞭化
⇒ 大切な情報を強調して示すこと
- * 視覚的組織化
⇒ 課題の材料や道具を整理して、どのように扱うかをわかりやすくすること

視覚的指示の例①

- 見てすぐわかる教材



視覚的指示の例②

- 完成品の見本



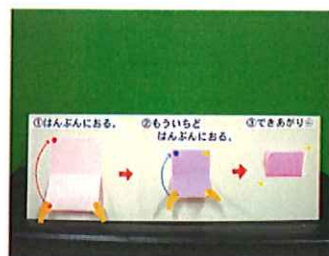
視覚的指示の例③

- 文字や数字で示す



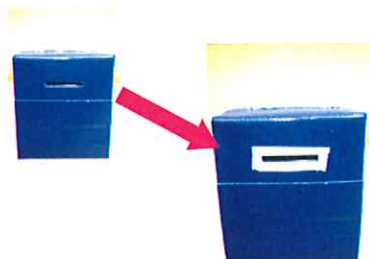
視覚的指示の例④

- 手順書



視覚的明瞭化の例①

- 色で強調する



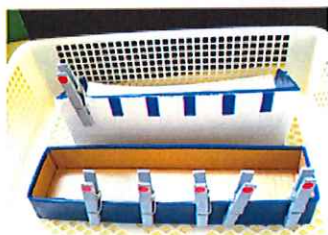
視覚的明瞭化の例②

- 色分けする



視覚的明瞭化の例③

- しるしを付ける



視覚的組織化の例①



バラバラの部品を...

部品ごとに整理!

見本の完成品があるとより丁寧♪

視覚的組織化の例②

- 作業手順にそって配置



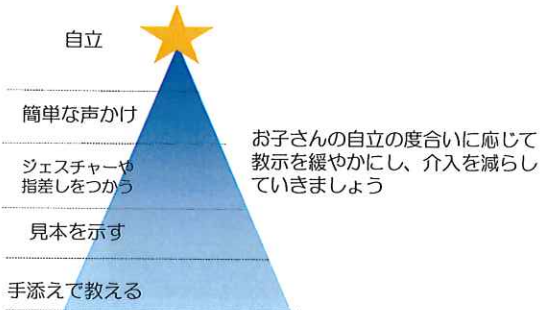
左から作っていくと
上手に組み立てられる

自立課題を作るときの注意点

- いろいろな種類の課題を作りましょう
- 使いまわしをしましょう
- なんでも利用しましょう
- 時間とお金はかけません
- 急なステップアップは避けましょう
- 作った課題は、一度自分でやってみましょう



教示は徐々にフェードアウトしていく

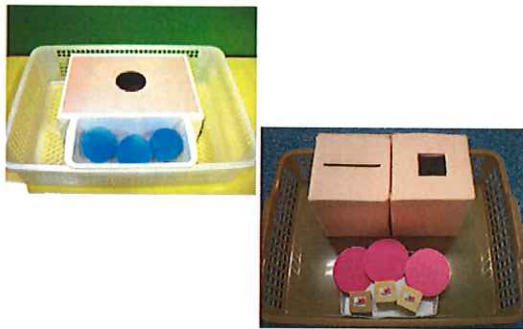


教材紹介

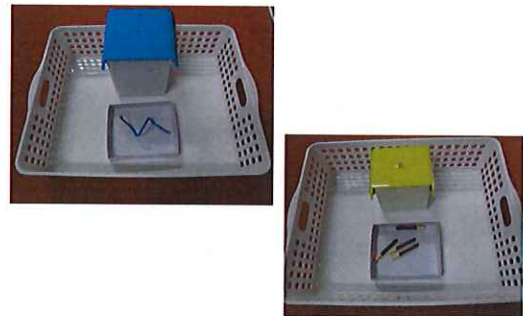
ご家庭でもつくれる
教材を紹介します



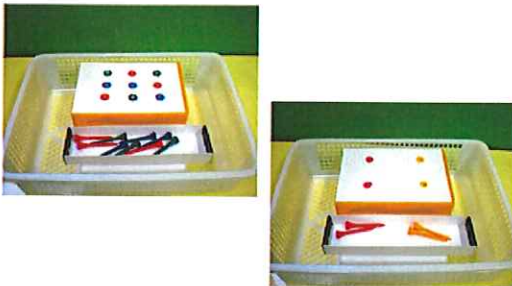
プットイン①



プットイン②



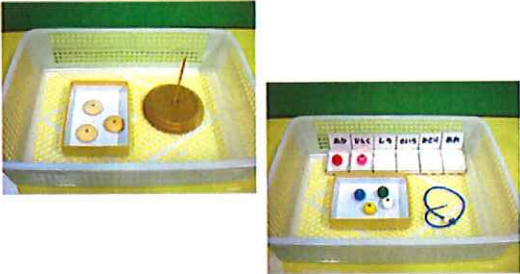
ペグ



ピンチ



ビーズ通し



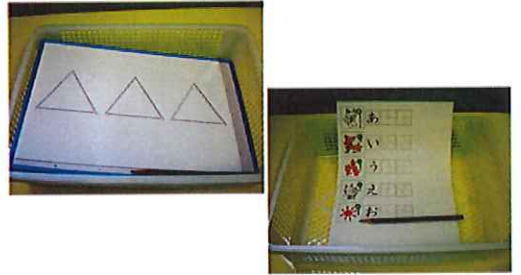
型はめ



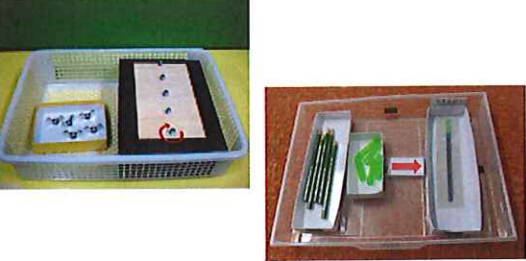
分類



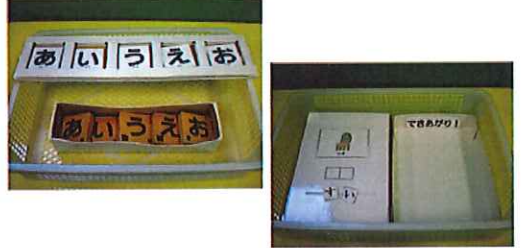
書く



微細・協応



文字



この他にも・・・

- 名詞・動詞・形容詞の理解
- 助詞の理解
- 文章の構成
- 上位概念の理解
- 時計・カレンダーの理解 などなど..

- 課題のアイデアは、いろんなものを参考に！
- 風の教材を参考にしてもOK
- テレビや本などから参考にすることも

ご清聴ありがとう
ございました

